

はじめに

2020年度のQOL研究機構 社会福祉学研究所 研究・活動報告書をお届けいたします。本研究所では毎年研究・活動助成を行い、その成果を研究・活動報告書としてまとめております。本年度はコロナウイルス感染症の拡大により、研究・活動に大きな制約がかかりました。そのような状況の中で、創意工夫をして実施された2編の研究・活動報告を掲載しております。

『「のべおか子どもセンター」19年目の活動報告』では、19年目を迎えた延岡市教育委員会（社会教育課）との連携事業である「のべおか子どもセンター」の本年度の取り組みと活動が報告されています。子どもセンターの事業は、親子体験活動と子育て講話を行う予定でしたが、感染拡大防止のため3密（密集、密接、密閉）を避け、親子体験活動は中止しました。しかし、このような社会状況化においてすべてを中止するのではなく、家庭で視聴できるように子育て講話のみをweb配信で実施しました。様々なイベントや機会が制限されたなか、創意工夫による試みから新たな可能性を見出すことができました。

『若手保育士の仕事の困難さへの克服過程について～第1報 インタビュー事例による予備的考察』は、保育士の早期離職が保育士不足の一因となっていることに着目し、若手保育士が入職前の保育に対するイメージと入職後の現実とのギャップのなかでどのような困難に直面し、困難に対してどのような協力や努力を経て困難を克服し成長を遂げていくのかを明らかにすることで、保育士の離職対策に係る知見を得ようと試みた研究です。

本研究所の研究・活動および本報告書の内容が、より良い地域社会を構築するための一助となりますことを願っております。

令和3年3月

九州保健福祉大学
QOL研究機構 社会福祉学研究所
所 長 正 野 知 基